

修学旅行 初日 平和学習の感想文

初日を終え、ひめゆり平和祈念資料館での研修が最も印象的だった。中でも、ひめゆり学徒隊として大戦を経験された女性たちのお話が、当時の資料映像と相まってより悲惨さを感じた。文章で学習するだけでは感じ取れないものが大きく、資料館として伝承していくことの意義も同時に体感した。ひめゆり学徒隊だった方のお話の中で、「運が悪かった」という言葉は亡くなった方に申し訳ない」とおっしゃられていたことが心に残った。また、平和記念公園では、「平和の礎」を造り、敵味方関係なく戦没者を弔っていることは事前学習があったので知識の中にはあったものの、実際に見るとその数の多さに驚いた。現在24万人以上の人々の名前が刻まれていることは驚くべきことだが、戦争終結から79年経った今でも発見されていない人は多く、このモニメントは未完成であることを知り、改めて地上戦の悲惨さを感じた。このモニメントの写真を撮っていかれる方もいると聞き、未だに安否不明者もいるのではないかと想像し、ずっと先の世に残す意味でも、先の戦争を体験された方にとっても、「平和の礎」もまた意味のあるものなのではないかと感じた。また、「平和の火」は今回初めて知ったが、沖縄を中心に世界地図を展開し、「沖縄を中心に世界中に平和を広げる」というコンセプトに感動するとともに、「平和の火」は沖縄だけでなく広島と長崎とも繋がっているということに感心を受け、印象に残った。ひめゆり平和祈念資料館と平和祈念資料館を見学して、生々しい戦争の様子に触れて、戦争を経験していない自分自身が目を逸らしたくなるような気持ちになったので、実際に戦争を経験した方々が証言してくださったことは感謝すべきことなのだと感じた。79年経った今でも忘れられない、強く苦しい記憶を語ってくださった戦争体験者に敬意を持つとともに、平和であることがいかに大切か、今回感じたことを忘れないようにしようと考えた。想像を絶する出来事の数々をいとも簡単に引き起こす戦争は決して再び起きてはならないのだと、反戦の意思を強く持つことができた。